

2025年

(令和7年)

6月7日[土]



沖縄大学

同窓会報

第40号

発行

沖縄大学同窓会広報委員会

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎・FAX 098 (832) 6560

E-mail
dosokai@okinawa-u.ac.jp



新年会・山代学長再選激励会



沖縄大学同窓会

会長 棚原 勝也

沖縄大学卒業式・修了式式典 同窓会長祝辞

皆さんご卒業おめでとうございます。そして、これまで卒業生を支えてこられたご家族の皆様、大学教職員の皆様に、心よりお祝いと感謝を申し上げます。同じ沖縄大学を卒業した同窓生を代表してお祝いの言葉を、卒業する「あなた」に贈ります。

あなたは、大学がなぜ「最高学府」と言われるのかご存知でしょうか？ それは「次の時代のリーダーを育てている場所だから」です。新たな時代の、新たなリーダーとして、あなたはこれから社会に飛び出していきます。

ではリーダーとは何か。どんな人物のことをリーダーと言うのでしょうか。組織的に立場が上にあるという人ではありません。

それは、自ら率先して行動する力のある人のことであり、他人の意見に納得す

れば、素直に賛同できる共感力の強い人のことであり、誰かの助けになる人のことをリーダーと呼ぶのです。

社会は一人では成り立ちません。大勢の人の力と、助けがあつて、初めて私たちは今の暮らしができていることを、時々立ち止まって、考えて、感謝できる人であつてほしいと思います。

あなたが4年間、学問を修められたのも、あなたの周りで、あなたを支えた人の存在があつたからだといふ今誰よりも感謝しているのはあなた自身かも知れません。

あなたが歩んだ4年間で振り返る時、決して平たんな時間だけではなかったと思います。挫けて目標を見失ったり、大学を辞めてしまおうと思ったりしたこと、あつたかも知れませんが、また、沢山の失敗をしたこともあつたでしょう。

そして、これからあなたは、あなたが挑む職場や社会の中でも、大学時代と同じように、失敗や挫折や、敗北感を味わうことが、必ずあるでしょう。

しかし、そうしたことは、決して不幸な出来事ではなく、あなたを大きく成長さ

せる出来事であることも忘れないでほしいのです。

話は少しですが、傷口に貼るバンソウコウがあります。漢字では、絆と創造の創という文字を使って「絆創膏」と書きます。ここでキズにあたる漢字は「創」の文字があてられています。「創」という漢字には、何かを「つくり出す」。何かを「始める」という意味があります。傷を負ったからこそ、何かを生み出す、次に歩き出す力を得ることができると漢字は教えています。涙を流した分だけ人は強くなり、優しくなれる。成長するためには、失敗を経験に変えることが必要なのです。

あなたに覚えてほしい言葉があります。それは芸術家岡本太郎さんの「他人が笑おうが笑まいが、自分の歌を歌えばいい」という言葉です。

自分が信じる道を、自分らしく堂々と歩んでほしい。自分の可能性を狭めることなく、自分にしかできないことを追求してほしい。その挑戦の先に、「次代のリーダー」としての生き方が備わっていくのだと考えます。ただ一方で、失敗すれば

落ち込むし、悲しくなるのも人の感情です。そうした時に、大学で出会った仲間や家族や、あなたが慕う先生や職員がいることを思い出して下さい。そして私たち同窓会もまた、その一人になりたいと願っています。改めて、ご卒業おめでとうございます。そして、あなたの未来が幸多からんことを願っています。



卒業生のみなさん



卒業式の様子

2024年度 卒業式・修了式

3月14日、2024年度
沖縄大学卒業式・大学院修
了式を挙行し、大学卒業
生489名、大学院修了生
1名、合計490名の新た
な門出を祝いました。

特別表彰では、個人8人
と2団体に学長賞や嘉数昇
記念賞、学部長賞等が贈ら
れました。

山代寛学長は告辞で「コ
ロナ禍を経験した世代です
が、困難な状況下でも学び
を諦めず、自らの成長を目
指した皆さんの努力に心か
ら敬意を表します。多様性
を尊重し、他者と共創し、

2025年度 入学式

4月2日、2025年度
沖縄大学・大学院入学式を
沖縄大学体育館で開催、学
部生622人、大学院生3
人が入学しました。

新型コロナウイルス感染
症の影響で、過去5年間は
学科ごとや2部制で開催し
てきた入学式でしたが、今
年度は一堂に会しての開催
となり、多くの保護者にも
ご参列いただきました。

新入生代表の吉元進之助
さん(経法商学科)は、「新

地域社会への貢献を忘れず
に常に学び続ける姿勢を大
切にしてください」との言
葉を贈りました。



卒業式の様子

しい環境に早く慣れていろ
うなことに挑戦し、頑
張っていききたいです。そし
て仲間と共に人としての成
長を重ねて、サークル活動
などにもチャレンジして自
分自身を磨いていきたいで
す」と入学の辞を述べまし
た。



入学式の様子

沖縄大学新同窓
寄稿

2024年度沖縄大学卒業
人文学部国際コミュニケーション学科
古波蔵 好太郎



映画祭で優秀賞を受賞

ハイサイ、グスーヨー、
チューウガナビラ。古波蔵
好太郎やイビーン。

2021年に入学したこ
とが昨日のように感じるほ
ど、早い4年間でした。入
学当初はコロナ禍で、当時
大学生生活を感じられる場所
は入学後すぐに加入した沖
大祭実行委員会でした。

オンライン、ハイブリッ
ド、完全対面の3つの沖大
祭を経験し、沖大祭実行委
員会では動画やポスター作
成、企画や運営に携わりま
した。

学校関係者のみならず学
外の方々とも交流し、人との
繋がりや協力して物事を
進める重要性を学びました。

また、「放送業務実践入
門」という動画編集を行う

講義で作成した「全盲の空
手家」父を見て感じるもの
」を担当教員の協力を得
て再編集を行い、「地方の
時代」映像祭にて優秀賞を
受賞できました。

「放送業務実践入門」の講
義を学校パンフレットで知
り、入学前から最も受講し
たい講義でした。その講義
をきっかけに賞を受賞でき
、家族の大切さを再確認し
ました。

大学生生活の4年間で全て
のものに繋がりがあり、何
よりも地元・沖縄について
学ぶことが大切だと気づき
ました。これからも私にで
きることを追究していきたい
と思います。



沖大祭の様子。左から3人目が古波蔵さん

沖縄大学福祉文化学科
新採用助教紹介(同窓生)

照谷 明日香

私は、沖縄大学福祉文化
学科の一期生です。卒業後
は福祉現場などの経験を経
て、社会人学生として県外
の大学院に進学しました。

その在学中に震災を経験し
、ボランティア活動に取り組
むなかで、改めて人と人の
つながりの大切さを実感
しました。

沖縄大学は地域に根差し
た大学として多くの人材を
輩出しており、教職員の
方々が日々熱心に学生と向
き合っています。人や地域
とのつながりを大切にしてい
る母校に今年度から教員
として着任することとなり
、大変嬉しく思っています。

お世話になった大学や地域
に貢献できるよう日々研鑽
に励みたいと思います。



宮城 直子

私は2010年に社会人
学生として福祉文化学科に
編入学し、2012年3月
に卒業しました。

在学中は仕事と学業の両
立にとても苦労しましたが、
社会福祉の専門的な学びに
加え、先生方の励ましや同
期の学友との交流など、今
でも忘れられない思い出と
なっています。

また、沖縄大学同窓会か
らは奨学金給付を頂き、大
学院進学の学資面で大変お
世話になりました。

今の私があるのは沖縄大
学のおかげといっても過言
ではありません。母校の沖
縄大学で後進の育成に関わ
る機会を与えてくださった
ことに感謝し、がんばりた
いと思います。

新年会・ 山代学長再選激励会

同窓会は、2月8日(土)60周年式典・祝賀会の慰勞会を兼ねた新年会を那覇市内で開催しました。また、本会は山代寛学長の再選祝いも兼ねており、同窓生の大学職員も参加する運びとなりました。

棚原会長は、「同窓会の先輩方の雪かきの労苦を、私たち後輩は忘れずに受け継いでいきたい」と、感謝を述べました。

山代学長は「大学創設以来 同窓生が活躍されており 後輩の励みにもなっている」とした一方で、今後の少子化時代に触れて、「これまで培った経験を生かし課題を克服できると確信している」と力強い挨拶を述べました。



新年会の様子

福祉文化学科ホームカミングデー

去る3月1日、沖縄大学同窓会館において「福祉文化学科ホームカミングデー2024」が開催され、この日、最終講義を迎えられた島村聡教授のゼミ生をはじめ、約90名の同窓生が集いました。

会は同窓会関西支部事務局長の橋口風伍さんの進行の下、初めにこの会に込められた思いが共有され、島村教授の最終講義とも重なるようにネットワークを広げることの意義を確認しました。

山野良一学科長の挨拶の後、棚原勝也同窓会長の熱いメッセージを動画風に仕立て、さらに25年の学科を振り返る動画を上映。吉川教授の渾身の一作で、当日の朝まで編集していたとのこと。

その後、橋口さんのファシリテートの下、県外で活躍する卒業生や当日参加の先生方のゼミ卒業生、現在の仕事分野ごとに15名程が今を発表しあうリレートークを経て、フリートークタイムに。懐かしい仲間との

同窓会支援

同窓会奨学生証書授与式

同窓会は、3月11日(火)奨学生証書授与式を開催しました。この奨学会は給付型で、大学院に進学する学生を支援するものです。

授与されたのは、仲本花さん(沖大大学院)と、仲間功也さん(沖縄県立芸大大学院)の2人です。授与式には、大学から、山代寛学長、奨学生推薦者の島袋隆志教授が参列しました。

仲間さんは、「琉球における芸能文化を研究してきたい」と述べ、仲本さんは「沖縄県における観光従事者の職業安定率」について研究し、将来の仕事への夢に繋げていきたいと述べました。



ホームカミングデーの様子



授与式の様子

宅地建物取引士合格者

同窓会は3月5日(水)宅地建物取引士資格試験合格者に表彰状と報奨金を贈呈しました。合格者は経法商学科3年次の上原大和さん、比嘉大夢さん、新垣佑さん、福祉文化学科2年次の仲間大飛さんの4人。

表彰式では棚原同窓会長が「合格という目標の先に自身の夢を描きながら、頑張ってきた皆さんの努力という経験は、必ずこれから生かさる」と激励。

比嘉さんからは「2回目合格を勝ち取れた。1回目の悔しさが力になった。3年だが東京の不動産会社へ内定をもらっているのだから資格を生かして頑張りたい」と挨拶。後日表彰の仲間大飛さんは「不動産関係の資格をさらに取りたい」と語りました。



表彰式の様子

日本語教員試験

同窓会は3月14日(金)国家資格の日本語教員試験合格者に表彰状と報奨金を贈呈しました。この資格は登録日本語教員になるための試験で、認定日本語教育機関で日本語教育課程を担当することが出来る資格です。

合格者は、上原佑貴さん、具志堅結香さん(国際コミュニケーション学科4年次)。

具志堅さんは「英語を学び、さまざまな国の人と交流する中で異文化への興味が深まりました。

日本語教師を目指したのは、言語が人々に新たな選択肢や可能性をもたらすことを実感し、日本とのつながりを望む人々の挑戦を支えられると思ったからです」と述べました。



具志堅結香さん



上原佑貴さん

- 2024年度
同窓会事業活動報告
1. 同窓会創立60周年式典・祝賀会開催

2. 役員会開催(8回)

3. 評議員会開催(3回)

4. 定期総会開催

5. 同窓会創立60周年記念事業委員会開催

6. 広報委員会(2回)在学生への支援

7. 社会福祉士・精神保健福祉士合格者へ祝金贈呈

8. 管理栄養士国家試験合格者へ祝金贈呈

9. 宅地建物取引士資格試験合格者表彰

10. 日本語教員試験合格者表彰

11. 同窓生家族(二親等)の入学金一部補助

12. 卒業証書ホルダー費用補助

13. 大学祭運営補助

14. 沖縄大学支援同志会学生支援

15. 卒業生に記念菓子贈呈

16. 青年部会主催学生サークル招待BBQ開催

2025 年度一般会計予算書 (案)
2025 年4月1日～2026 年3月31 日

収入の部 (単位: 円)			
項 目	2025年度予算A	2024年度予算B	増△減 A-B
1. 会費	9,760,000	10,120,000	△360,000
2. 事業収入	1,000	1,000	0
3. 雑収入	2,000	100	1,900
当期収入合計	9,763,000	10,121,100	△358,100
前年度繰越金	8,081,354	9,590,418	△1,509,064
収入合計	17,844,354	19,711,518	△1,867,164

2024 年度一般会計決算書
2024 年4月1日～2025 年3月31 日

収入の部 (単位: 円)			
項 目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 会費	10,120,000	9,920,000	△200,000
2. 事業収入	1,000	0	△1,000
3. 雑収入	100	1,595	1,495
当期収入合計	10,121,100	9,921,595	△199,505
前年度繰越金	9,590,418	9,590,418	0
収入合計	19,711,518	19,512,013	△199,505

支出の部 (単位: 円)			
項 目	2025年度予算A	2024年度予算B	増△減 A-B
1. 事務費	3,336,000	2,736,000	600,000
2. 会議費	1,300,000	1,500,000	△200,000
3. 事業費	9,460,000	6,990,000	2,470,000
A 卒業生対象事業	(4,150,000)	(3,350,000)	(800,000)
B 在学生への支援事業	(4,310,000)	(3,440,000)	(870,000)
C その他の事業	(1,000,000)	(200,000)	(800,000)
4. 事務委託費	740,000	740,000	0
5. 記念事業積立	0	1,000,000	△1,000,000
6. 雑費	100,000	100,000	0
7. 予備費	2,908,354	6,645,518	△3,737,164
支出合計	17,844,354	19,711,518	△1,867,164

支出の部 (単位: 円)			
項 目	予算額 A	予算額 A	増△減 A-B
1. 事務費	2,736,000	2,691,396	△44,604
2. 会議費	1,500,000	1,241,169	△258,831
3. 事業費	7,090,000	5,753,094	△1,336,906
A 卒業生対象事業	(3,200,000)	(2,199,604)	(△1,000,396)
B 在学生への支援事業	(3,690,000)	(3,189,000)	(△501,000)
C その他の事業	(200,000)	(364,490)	(164,490)
4. 事務委託費	740,000	740,000	0
5. 記念事業積立	1,000,000	1,000,000	0
6. 雑費	100,000	5,000	△95,000
7. 予備費	6,545,518	0	△6,545,518
当期支出合計	19,711,518	11,430,659	△8,280,859
次年度繰越金	0	8,081,354	

2024 年度特別会計決算書
沖縄大学同窓会創立 60 周年記念事業
2024 年4月1日～2025 年3月31 日

収入の部 (単位: 円)			
項 目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 前年度繰越金	2,500,047	2,500,047	0
2. 特別積立金	1,000,000	1,000,000	0
3. 事業収入	200,000	1,305,000	1,105,000
4. 雑収入	0	1,765	1,765
収入の合計	3,700,047	4,806,812	1,106,765

支出の部 (単位: 円)			
項 目	予算額 A	決算額 B	増△減 B-A
1. 行事費	3,858,047	3,770,380	△87,667
2. 次年度繰越金	0	1,036,432	1,036,432
支出の合計	3,858,047	4,806,812	948,765



- 2025年度
事業計画案
1. 九州支部・野球部OB部会・学生支援部会設立

2. スポーツ大会の開催

3. 同窓会奨学金の交付

4. 「同窓会報」発行

5. 各支部(久米島・宮古・八重山・関東・関西・九州)活動支援

6. ヤンバル支部設立を目指す

7. 部会への活動支援
 在学生への支援事業

8. 同窓生家族(二親等)への入学金一部補助

9. 資格取得支援補助

10. 就職活動支援

11. サークル県外派遣費補助

12. 大学祭運営補助

13. 卒業証書ホルダー費用補助

14. その他支援活動補助

関東支部長 仲宗根 政則

関東支部は今年で設立23年目を迎えます。昨年度は、7月の支部総会及び懇親会と、12月に大学就職課との連携し、関東で就職された2022、24年卒業生と就職課職員との交流会及び支部会員との懇親会を行いました。

本会には6名の初参加がありました。毎回、約25、30名の参加があり、支部活動も更に盛り上がっています。

重点方針

1. 支部行事の企画内容の充実
2. 支部行事の開催を通じて、参加メンバーの懇親を深めると共に新規メンバーの増員
3. 同窓会本部や他支部と連携して、関東エリア在住の同窓生へ関東支部の認知度向上



関東支部のみなさん

関西支部長 清村 斉

関西支部は今年3月11日で設立2年目を迎えました。1月に開催した新年会には、若い新メンバーも加わり活気が出てきています！

大阪では「関西・大阪万博」も開催されています。関西から元気を発信出来ればと思っていますので、今年度も宜しくお願い申し上げます。

役員

支部長 清村 斉
副支部長 神田智博
事務局 橋口風伍



関西支部のみなさん

活動計画

1. 2025年度関東支部総会&懇親会
2. 交流会及び懇親会
3. 支部役員会

2025年度役員体制

支部長 仲宗根 政則
副支部長 高山朝宜
事務局 阿波根昌吾
監査 中澤麻里絵
顧問 新城将孝

久米島支部長 宇江城 久人

2025年度、沖縄大学同窓会久米島支部は今回の定期総会後、新体制となり、他地区との交流、同窓会活動の参加者増やす、久米島高校との情報交換を目標としています。

活動報告

5月 役員会、定期総会懇親会
8月 保護者懇親会、沖縄大学との交流会
12月 役員会
1月 新年会パークゴルフ大会

役員

支部長 宇江城 久人
副支部長 吉永 博之
副支部長 津波 瞬
会計 金元 圭汰
事務局 大城 学



久米島支部のみなさん

宮古支部長 下地 信広

重点目標として「同窓生のネットワークを活用し会員の拡充に努める」を掲げ、以下の活動を行っています。宮古在住の同窓生の皆様の宮古支部へのご入会、行事参加をお待ちしています。

- 1 グラウンドゴルフの後、定期総会、役員会は随時参加
- 2 沖縄大学同窓会定期総会参加
- 3 沖縄大学保護者懇談会に参加
- 4 冠奨学金の依頼
- 5 大学入試推薦枠に依頼
- 6 忘年会、新年会の開催
- 7 卒業式、入学式への参加
- 8 その他沖縄大学関連行事に関する協力等

支部役員紹介

支部長 下地 信広
副支部長 下地尚登
副支部長 藤本 明一
監事 喜友名朝則
事務局 儀間 博



宮古支部のみなさん

八重山支部長 鳩間 真英

八重山支部は2000年に結成され、今年25年を迎えます。節目の年にやれる範囲で精一杯頑張りたいと思っています。

昨年度、結成された青年部との連携を深め活動を活性化していきたいと思っています。支部発足以来、連綿と活動の中心柱としていたグラウンドゴルフで親睦を深めてまいります。以下、今年度の活動の計画を紹介します。

- ・5月10日(土) 第1回グラウンドゴルフ大会
- ・2025年度定期総会
- ・年度内に計4回のグラウンドゴルフを実施予定



八重山支部のみなさん

八重山支部青年部長 大瀧 用四郎

5月10日(土)の夜、八重山支部青年部の懇親会を開きました。今回の懇親会では、棚原勝也会長と奥間邑明事務局長をお迎えし、鳩間真英八重山支部長をはじめ9名が参加。

初参加は大久勝さん。勝さんは以前八重山毎日新聞の沖縄本島通信員をされていた。勝さんの軽妙なトークは、参加者の笑いを誘い、会を盛り上げてくれました。

昨年、支部会則に正式に位置づけられた青年部。「ゆるく、長く」をキャッチフレーズに、「弱い紐帯」関係のある青年部になっていけたらと考えています。島に住む同窓生の掘り起こしに加えて、八重山支部をこれまで支え続けた先輩方との交流も行っています。



八重山支部青年部のみなさん



同窓会創立 60 周年祝賀会



正月用生け花体験

2024年度は同窓会創立60周年記念の年となりました。主だった活動はその祝賀会での幕開けとなる「かじゃでい風」を踊る為の稽古にあてました。

約4カ月の練習成果もさることながら、本格的な琉球舞踊の衣装をまとっての舞台は大成功だったと自負しております。

そして、年末恒例の「お正月用生け花体験」では部会メンバーのうち、十二名が参加して賑やかに楽しく活動して一年を締めくくることができました。

女性部会長 飯田 明美



青年部会主催のバーベキュー

青年部会とは概ね50歳以下の会員のネットワーク拡充や部会員の増員を目的とし、沖縄大学同窓会をサポートする目的で活動しています。

各世代において同窓会員を獲得し、現役学生に同窓会の活動を知っていただくため、学生を招いて交流会を開催してきました。

昨年12月に催した忘年会には、九州や全国大会で活躍した硬式野球部・軟式野球部のメンバーをお招きし、会長・副会長を含めて30人の大きな催しになりました。

同窓会の存在と活動を知っていただく良い機会となり、卒業間近の学生には、大学院に進む際の同窓会奨学金の案内もしています。

青年部会長 島袋 格

支援同志会 挨拶



会長 新垣 淑典

我々「沖縄大学支援同志会」は同窓生を主体としてスタートしました。

以降学外の個人・法人の皆さんからも多くのご支援を頂き運営されてきています。

それらを原資にして2024年度は離島出身学生7人に家賃補助といった直接的な支援を行いました。

また学校内の環境・施設整備の一環として、学生が休憩時間等に利用してもらう為の木製ベンチの寄贈などを行なっていました。

まだまだ支援としては小さなものばかりですが、これからも学生の皆さんのためになる支援を続けていきたいと考えています。

同窓会の皆様も趣旨をご理解の上、同志会へのご協力をお願い申し上げます。

新採用教員と懇親会



懇親会の様子

5月2日(金)福祉文化学科教員に採用された、社会福祉士育成の現場経験も豊富な宮城直子助教と、大城貴之学生部長、同窓会役員で懇親会を開催しました。

宮城助教は過去に沖縄大学同窓会奨学金を授与された方です。また、大城学生部長は長く硬式野球部の監督を務め、昨年は「沖大硬式野球部OB会」を結成し、同窓会の力強いまとめ役でもあります。

懇親会では宮城助教のこれまでの看護師としてのキャリアや「後輩たちを育てる側になりたい」という社会福祉士育成への熱い思いもお聞きし、頼もしい教員の誕生を嬉しく思いました。

硬式野球部OB会

会長 仲村 常司



野球部 OB 会のみなさん

沖縄大学野球部OB会は、野球部への支援、会員相互の親睦、野球部の発展に寄与することを目的に2024年2月に設立されました。

昨年は設立初年ということもあり、運営その他、苦労もありましたが、会員の積極的な協力に支えられながら取り組んでまいりました。

2025年2月24日(土)には、定期総会を沖縄大学で開催し、事務局から2024年の活動・収支状況、そして2025年の事業計画や予算計画、会費納入の依頼などについて説明



野球部 OB 会で乾杯の様子

があり、会員の賛成多数を持ってご承認をいただきました。

また、昨年の反省を活かし、野球部とOB会が互いをもっと知ろうということでOB会のグループLINEを通じた情報発信やOB会活動への現役部員参加など、双方の接点づくりを意識してつくっていくことなどについてもご理解をいただきました。

2025年も会則にそった運営のもと、沖縄大学同窓会とも連携しながら活動を展開してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

九州支部設立

九州支部長 小倉秀昭

「84H068」これが私の沖縄大学での学籍番号です。1984年沖縄大学法経学部法学科に入学したのが良い意味で人生の分岐点だったような気がします。

鹿児島県の地方都市薩摩川内市にある県立高校の在籍時、たまたま高校の図書館で目に留まった高校生向けの『考える高校生』という情報誌を読んでいたら雑誌の広告欄に沖縄大学の広告が掲載されていました。

その広告を見た瞬間に小学生的ころ涙して読んだ沖縄戦に関係するひめゆり学徒隊、鉄血勤皇隊の書籍、羨望のまなざしで見えていたテレビに映る南沙織、フィンガーファイブの活躍ぶり、行きたくても行けなかった沖縄海洋博覧会のこと、17歳の胸に一挙に未来して、これは運命だと確信し、まだ訪れたことのない沖縄の地を目指そうと決心。

1984年から1992年まで人生初の沖縄での大学生生活、そして社会人生活を体験しました。

沖縄大学のカリキュラムで印象的な出来事を2つほ

ど挙げさせてもらおうと、1年次の時の金城一雄教授の社会問題ゼミ、糸満地区での離婚家庭と、未婚の母がいらっしゃる家庭の調査。

この調査は当時19歳の自分自身にとっては、非常に重い課題できつくて止めたくなる調査でしたが人生修行と思いつい最後まで続けてゼミでの評価で「優」をいただいた事。

そしてもう一つは一般教養の「琉球史」。この琉球史の講義で恥ずかしながら、自分の出身地鹿児島、薩摩が1609年に琉球に侵攻したという事を初めて知った事です。

沖縄への憧れ興味を充満させて訪れた自分が、琉球と薩摩の関係性を知らずにいて沖縄大学の講義でやっと知ったことは今でも忘れられません。

人生初の就職も沖縄大学で知り合った良き先輩、同期生、恩師のバックアップ

を頂きラジオ沖縄に就職させていただき番組制作ディレクターとしてラジオマンとしての一歩を踏み出し、そこで出会えたのがアナウンサーとして入社された現、琉球朝日放送編成局長の棚原勝也氏、沖縄大学同窓会

会長でした。

他に類を見ない前置きの長さをお詫び申し上げます。えで、それから35年、沖縄大学同窓会の棚原会長、奥間事務局長の情熱に心を動かされ、2025年3月22日福岡県福岡市にて沖縄大学同窓会・九州支部設立総会を開催。

設立総会には福岡在住の市丸典史さん(副支部長)上江田忠さん、野口直樹さん、広島在住の大筋泰士さん(副支部長)、沖縄からは同窓会の棚原勝也會長、島袋格副会長、奥間邑明事務局長にご出席いただき和やかな雰囲気です設立総会を執り行うことができました。

2025年度沖縄大学同窓会九州支部は役員の皆さんと「いちやうりばちよーでー」の気持ちで同窓会の輪を広げて行きたいと思えます。ゆたしくうにげーさびら。



九州支部のみなさん

同窓会創立60周年記念祝賀会の様子



人物シリーズ 活躍する 同窓生 ②⑧

この人物シリーズは、同窓生の社会的活動を紹介するとともに、同窓生同士のネットワークを広げること、在学生へのメッセージを通して沖縄大学との絆を深めたいとの趣旨で企画されました。

新見 弘基さん

2021年3月卒業
福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻



◆沖縄大学入学のきっかけ

生まれも育ちも東京都世田谷区の私が沖縄大学に進学したのは不思議な縁でした。

高校3年生になり進学を考え始めた時に小学生から

続けていた「サッカー」で海外挑戦をしたいと考えておりました。海外のトライアウトを受けるため様々なエージェントとコンタクトを取り、いよいよ両親に話したところ大反対。

怪我や年齢のリスクを考えると大学に進学してからも遅くないのではと説得され、そこから始めて大学進学を考え始めました。

元々、海外に行きたかったこともあり「東京から一番遠い大学に行こう」「それなら北海道か沖縄か」「北海道は陸続きだからそう簡単には帰って来られない海を隔てた沖縄にしよう



大学時代

圧倒的にサッカー部での思い出です。今でも忘れないのが、初めての試合で監督が「わったーは○○○だからよ」「やったーは○○○なんだよ」とミーティングで話していた戦術やサッカーの話が入ってきた。そんな沖縄の文化にも触れること

う」という安易な考えで沖縄への進学を決めました。調べていく中で沖縄大学はスポーツについて学べる学科で、8月に早めのAO入試がある事を知り、とりあえず受けようと思い、受験し合格しました。

◆在学中の思い出

のできたサッカー部では1年生の時に18年ぶりの九州リーグ昇格や先輩後輩、そして4年間一緒に戦った同級生の5人は一生の仲間として今でも大切にしています。

◆卒業後の進路

東京で営業の仕事に就職しました。沖縄に移住して大好きになりました。残って就職も考えましたが、こんなにお世話になって沖縄に恩返ししたいと思い一旦東京で働いてスキルをつけてそれを沖縄に還元しようと思い、東京での就職活動を始めました。



趣味のサーフィンを始めたのは大学時代

東京では個人や法人への様々な商材の営業、サッカースクールの運営、コーチを経て、3年間東京で働き、現在、石垣島で地域おこし協力隊として戻ってきました。

石垣島に移住した一番の理由は大学時代の「沖縄に恩返ししたい」という思いです。

東京で経験したことや身につけたスキルを石垣島の地域おこし協力隊であれば活かせるのではないかと感じ応募させていただきました。

現在はスポーツを通して石垣島の活性化を推進して



石垣島で小学生にサッカー指導

います。東京でのサッカーコーチの経験を生かして小中学生のサッカーコーチも行っています。

◆沖縄大学と在校生へ

沖縄大学の学生ということに誇りを持ってほしいと思います。確かに全国にはキャンパスが広かったり、綺麗だったり様々な魅力のある学校は多くあると思います。

ただ他の学校には無いものが沖縄大学にはたくさんあります。自分が選んで進んだ道を信じて楽しんでこれから歩んでほしいなと思います！